

\*\*\*\*\*ジャッジご紹介\*\*\*\*\*



**Ms Saija Juutilainen**

**from Finland**

現在我が家にはサルーキに加え1頭のラブラドルがおりますが、屋外犬舎を作っていない為に、彼らは完全に私たちと生活を共にしています。ベッドも椅子もです。私は犬を家族の一員として扱うのは重要だと信じていますし、サルーキは私にとって本当に友のような存在です。サルーキはショー、レース、狩猟にも向いていますし、愛すべき仲間としてふさわしいです。

長い間フィンランドケンネルクラブ書記、ショー委員会、スチュワードを歴任し、そして1995年から2003年にはフィンランドサルーキクラブ代表を務めました。

1999年からはフィンランド審査員協会の役員会メンバーも務めています。

1997年にスウェーデンのクラブショーで初めてサルーキを審査し、

1999年の夏以降はCCレベルの審査もしています。

今日ではFCIのグループ2, 4, 5, 6, 8, 10の全犬種審査の資格を持ち、

FCIのグループ1, 3, 7, 9のほぼ全ての犬種の審査もします。

私が審査で訪れた国は、全ての北欧諸国およびバルト諸国に加え、ベルギー、カナダ、チェコ共和国、イギリス、アイルランド、イタリア、日本、ドイツ、ポーランド、ロシア、スロバキア、スイス、アメリカの21カ国、3地域にわたります。皆様よろしくお願いたします。

私が幼少の頃から我家では祖父がラフコリーやウェルシュコーギー・ペンブロークを飼っていたので、犬との暮らしが始まっていました。

60年代後半、私達はヘルシンキに住んでおり、そこで私にとって初めてのサイトハウンドと出会いました。

1980年最初のサルーキが私の生活に仲間入りし、私は同時にアフガンハウンドにも深く魅了されていたのですが、膨大なコートにかかる労力が、どれほどになるかを、既に知っていた家族は同意してくれませんでした。その他に、私がとても好きだったのはディアハウンドとグレイハウンドでしたが、当時のフィンランドでは入手が困難でした。